Ⅲ　各教科の改訂及び授業改善のポイント

（1）国　　語

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

国語総合（４）　全員が必ず履修	現代文Ａ（２）	古 典 Ａ（２）
国語表現（３）	現代文Ｂ（４）	古 典 Ｂ（４）

2　教科の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

ここがポイント！
○「想像力を伸ばす」を新たに付加
○話すこと・聞くこと，書くこと，読むことの関連の中で，表現と理解の能力を調和的に育成

3　各科目の内容（主な変更点等）

国語総合
○　教科の目標を全面的に受け，総合的な言語能力を育成
○　我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度及び感性や情緒を育成

「伝統的な言語文化及び国語の特質に関する事項」を設定

国語表現
○　実社会で活用できる表現の能力を育成
○　進んで表現する意欲や現代の国語の向上を図る態度を育成

話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いた指導が可能

現代文Ａ
○　生涯にわたり日常的に読書に親しむ態度を育成
○　我が国の言語文化に対する理解を促進

現代文Ｂ
○　読む能力のみならず，読んだことをもとに考え，判断・評価し，論理的に表現する能力を育成
○　文字・活字文化に対する理解の深化

古 典 Ａ
○　古典についての解説文等も取り上げ，古典に親しむ態度を育成
○　我が国の言語文化に対する理解を促進

古 典 Ｂ
○　古典についての評論文等も取り上げ，系統的に指導
○　古典に対する関心と知識を高め，古典を読む能力を育成

○Ａ科目は言語文化の理解が中心的なねらい
○読書及び古典に親しむ態度を育成

○Ｂ科目は読む能力の育成が中心的なねらい
○表現する能力、文語文法も指導

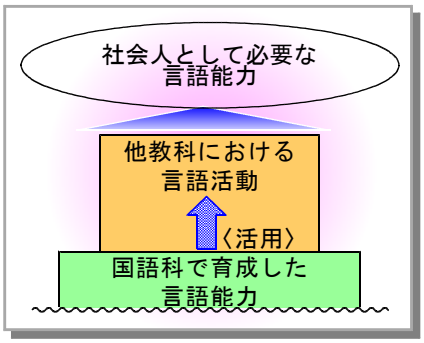
4　各科目に共通の留意事項

（１）学校図書館の活用

各科目の指導と評価の計画に位置付け，意図的，計画的に学校図書館を用いた指導を行う。

（２）言語活動の充実

国語科の各科目の指導と評価の計画の中に，他の教科・科目等の指導との関連を明確に位置付ける。



5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）言語活動の観点から授業を見直し，表現に限らず様々な言語活動を取り入れる。
（２）訓詁注釈に終始せず，言語活動を取り入れることを通して古典指導の改善を図る。
（３）「まず教科書ありき」ではなく，指導事項，学習活動を設定してから教材を選定する。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 自分の考えをもち，効果的に話すこと，的確に聞くことを促す授業展開
  - *話題について様々な角度から検討*
- 説明，描写など，適切な表現の仕方を考えて書く学習
  - *記述の対象，相手，目的などにより区別して使い分け*
- 様々なメディアの表現や実用的な文章を読む学習
  - *報道，手紙，記録，報告，条文，宣伝，電子メールなどの理解*
- 言葉の成り立ち，表現の特色及び言語の役割を理解する学習
  - *語彙の変遷，構造等の理解 他言語との比較*

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ 意見構築 ▶ 発表論述

話す・聞く，書く，読む

《課題を設定して行う学習の例》

【シンポジウムの実施】（話すこと・聞くこと）
「高校生の読書について考える」
データ，識者の意見を集めて分析，資料を作成して発表

【詩歌や随筆の創作】（書くこと）
「春への思いを書く」
春の出来事，春への思いをテーマに自らの体験を踏まえて随想を執筆

【読み比べたことを批評】（読むこと）
「史記の世界」
項羽本紀，高祖本紀を読み比べ，それぞれの人物像について批評

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○筆者の考え方，登場人物の生き方等を理解し，自己の在り方生き方を振り返る。
○社会人としての言語の使い方の学習として，身近な出来事を報告する文章を書く。

コミュニケーション能力を育む教育

○課題に応じて資料を取捨選択し，必要な内容をまとめて発表し合う。
○さまざまな文章を読み，感想を述べ合ったり，批評し合ったりする。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○山口県にゆかりのある作家や詩人の作品を読み，読書の幅を広げる。
○伝統的な言語文化について調べ，現代と比較しながら古典を味わう。

（2） 地　理　歴　史

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

世界史Ａ（２） 世界史Ｂ（４）	１科目を必ず履修
日本史Ａ（２） 日本史Ｂ（４） 地　理　Ａ（２） 地　理　Ｂ（４）	１科目を必ず履修

2　教科の目標

内容は従前と同じ

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

ここがポイント！　世界史，日本史，地理相互の関連付けを図りながら考察

3　各科目の内容（主な変更点等）

世界史
- ○ 導入学習において日本史を含めた歴史や地理への関心を高める内容を充実
- ○ 現代世界の課題に関する主題を設定し，資料を活用して探究する学習を充実
- ○ Ａは，現代史に一層重点を置いた内容構成
  Ｂは，世界史の中での日本の位置付けに留意した内容構成

日本史
- ○ 様々な資料を活用して歴史を考察し表現する学習を重視
- ○ 近現代の学習を一層重視する趣旨で項目を再構成
- ○ Ｂは，各時代の特色や時代の変遷にかかわる総合的な考察を一層重視

地　理
- ○ 歴史的背景を踏まえて学習することを重視
- ○ 地図に関する単元の設定
- ○ Ａは，日常生活との結び付きを重視
  Ｂは，世界の諸地域を偏りなく取り上げ地誌学習を充実

4　各科目に共通の留意事項

（１）中学校社会科との関連に留意

世界史では，導入単元で中学校社会科からの円滑な接続に配慮した内容を盛り込む。

（２）公民科との関連に留意

地理歴史科・公民科の共通留意事項として，次のことが示された。

> 内容の指導に当たっては，教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき，特に慎重に行うよう配慮して，政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

（３）情報を主体的に活用する学習活動，作業的・体験的な学習の重視

- ○ 地図や年表の読み取りや作成
- ○ 資料の収集・選択，読み取り，解釈
- ○ 調査・研究した結果の発表，報告書の作成

→ 生徒が情報を適切に活用し諸事象を公正に判断できる

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）「地理歴史は暗記教科」というイメージを取り除き，作業的・体験的活動を組み込む。
（２）地理的技能や歴史学習にかかわる技能を高めるため，多様な資料を活用する。
（３）討論や発表の機会を設けるなど，言語活動の充実を図る。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 社会的事象の意味や意義を把握しながら知識の定着を図る授業展開
  発問の工夫「なぜ～なのか」「～の歴史上の意義は何か」
- 前の時代や他の地域の学習内容を振り返り，比較・考察する授業展開
  「～と比べて･･･の特徴は何か」
- 文献，地図，写真，映像，統計などの資料を活用した学習活動の工夫
  読み取り・解釈・説明・論述
- 地図や年表，グラフを作成するなど作業的活動を導入
  地図化・年表化・グラフ化

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

主題設定 ▶ 追究探究 ▶ 発表論述

《主題を設定して行う学習の例》

【歴史地図の作成】（世界史）
「ユーラシアの交流圏」
各世紀における交流圏の特徴を地図に表して比較・考察

【地域素材の活用】（日本史）
「長州ファイブの見た世界」
幕末の日本と世界の関係や，明治期のリーダーの国際認識について考察

【地域調査の実施】（地理）
「これからの我が町」
地球規模の諸課題の学習を踏まえ，身近な生活圏のあるべき姿を考察

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○歴史上の人物の生き方を，その人物が生きた場所や時代を踏まえて考察する。
○地図の読図や作図，地図を使用しながらの説明など，情報を活用した学習をする。

コミュニケーション能力を育む教育

○絵や写真，史料などの一次資料から読み取れることについてグループで討論する。
○博物館や資料館で学んだ成果や地域調査の結果を発表し双方向に議論する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域の先人や文化遺産を切り口として我が国や世界の歴史を考察する。
○生活や文化について，日本や世界の地域と，自分たちが住んでいる地域とを比較する。

（3） 公　　民

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

現代社会（2）	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」を必ず履修 ※（従前と同じ）
倫　　理（2） 政治･経済（2）	

2 教科の目標

内容は従前と同じ

広い視野に立って，現代の社会について主体的に考察させ，理解を深めさせるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を育て，平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

ここがポイント！　各科目に課題を探究する学習を設けるとともに，**論述，討論などの言語活動を充実**

3 各科目の内容（主な変更点等）

現代社会

- ○ 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての考察を充実
- ○ 青年期についての学習において伝統や文化にも触れる
- ○ 法や規範の意義及び役割，司法制度の在り方など法に関する学習を充実
- ○ 経済活動についての学習において，私法，金融，消費者に関する学習を充実

倫　　理

- ○ 目標に，「生命に対する畏敬の念」及び「他者と共に」を加える
- ○ 人間としての在り方生き方への関心を高めるよう導入学習を充実
- ○ 現代の諸課題について「文化と宗教」などを加えるとともに，主体的に探究させる学習を一層充実

政治･経済

- ○ 法の意義と機能，法に関する基本的な見方や考え方など，法に関する学習を充実
- ○ 金融や消費者に関する学習を充実
- ○ 持続可能な社会の形成という観点から課題を探究させる学習を充実

4 各科目に共通の留意事項

（1）情報を主体的に活用する学習を重視するとともに，作業的，体験的な学習を取り入れるよう配慮

（2）資料の収集，処理や発表などに当たっては，コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するとともに，生徒が主体的に情報手段を活用できるようにする。

（3）内容の指導に当たっては，教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき，適切に行うよう特に慎重に配慮して，政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）学習内容を生徒が単に知識として受け止めるのではなく，常に生徒自身が自己の課題として受け止める学習となるようにする。
（２）論述・討論などの活動を通して，言語活動の充実を図る。
（３）科目の内容構成については，関係する各科目の内容との整合性を図ることに十分配慮する。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 事象を総合的，構造的に把握させる授業展開
  「多面的・多角的な学習」
- 地理的，歴史的な見方，考え方を活用した授業展開
  「他教科との連携」
- 文献，地図，写真，映像，統計などの資料を活用した学習活動の工夫
  資料活用力の育成
- 情報の検索の仕方，簡単な社会調査の方法などを含めた学習活動の工夫
  調べ方の習得

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ 探究 ▶ 発表論述

《主題を設定して行う学習の例》

【ディベートの実施】（現代社会）
「クローン技術」
生命の尊厳と食料増産など異なる立場から生命にかかわる課題を考察

【討論の実施】（倫理）
「ソクラテスの生き方」
ソクラテスの生き方についての討論を通して，現代に生きる人間としての在り方生き方について考察

【レポートの作成】（政治・経済）
「国際経済格差」
発展途上国の経済的な自立と持続可能な発展と先進国の協力の在り方について考察

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○職業生活や人生設計等について考察し，お互いに評価し合う。
○先哲の思想をもとに自らの在り方生き方について考察する。

コミュニケーション能力を育む教育

○プレゼンテーションや討論，ディベートの形式を用いて議論を深め，自らの考えや集団の考えを高める。
○政治や経済について考察した過程や結果について分かりやすくレポートにまとめる。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○思想や文化に示された日本人のものの見方・考え方を整理する。
○歴史と伝統のある芸術作品や芸術家の生涯を取り上げ人生における芸術の意義について考察する。

（4） 数　　学

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

数 学 Ⅰ （3）	必履修科目
数 学 Ⅱ （4）	
数 学 Ⅲ （5）	
数 学 A （2）	
数 学 B （2）	
数学活用 （2）	新設

ここがポイント！

○「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」及び「数学活用」
　……内容をすべて履修
○「数学A」及び「数学B」
　……三つの内容から幾つかを選択
○「数学Ⅰ」及び「数学A」は，全内容で**課題学習を実施**

今回の目玉

2　教科の目標

数学的活動を通して，数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め，事象を数学的に考察し表現する能力を高め，創造性の基礎を培うとともに，数学のよさを認識し，それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

ここがポイント！

数学的活動（＝数学学習にかかわる目的意識をもった主体的な活動）を重視

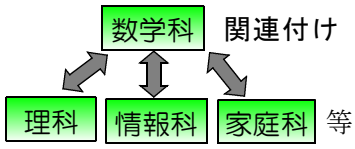
3　各科目の内容（主な変更点等）

数学Ⅰ	○標準偏差や相関係数などを扱い，統計活用力を育成 ○必要条件や十分条件などを扱い，論理的な思考力・表現力を育成
数学Ⅱ	○二項定理を扱い，式の展開についての理解を深化 ○指数関数・対数関数と三角関数に分けて扱い，他教科と関連付けて学習
数学Ⅲ	○複素数平面を扱い，複素数の諸演算と図形の移動が関連付くことを認識 ○図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを扱い，定積分の有用性を実感
数学A	○作図と空間図形を新たに加え，空間認識力を育成 ○ユークリッドの互除法や二進法などを理解し，整数の性質を事象の考察に活用
数学B	○統計的な推測の意味やよさを理解し，活用する態度を育成 ○ベクトルの性質について理解し，それらを図形の性質などの考察に活用
数学活用	○ゲームなどの必勝法を考え，論理的に考察することのよさを認識 ○イベント会場の順路などを考え，数学を積極的に活用する態度を育成

4　各科目に共通の留意事項

（1）**学習内容の系統性に留意**

当該科目や今後履修する他の科目及び理科，情報科，家庭科など他教科の内容を踏まえ，相互に関連付ける。



（2）**用語・記号は内容と密接に関連付けて指導**

用語・記号の意味や用いることのよさを把握する。

（3）**コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用**

コンピュータなどを適切に活用して，学習の効果を高める。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）　**数学的活動の充実**…知識や技能の「量」だけでなく，学習の「質」を高める。
（２）　**数学でコミュニケーション**…式，図，グラフなどを用いて自己の考えを表現できるようにする。
（３）　**育てたい資質・能力の洗い出し**…人間形成に資する数学教育となるようにする。
（４）　**数学を学ぶ意義の明確化**…「問題の答えを求める」だけでなく，数学のよさを伝える。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

観察・実験・操作を通して学び，実感を伴って理解する授業展開
主体的な学習を促す。

内容の系統性を重視し，反復による授業展開
以前の内容と関連付けて学習する。

知識を体系的に理解する授業展開
単元終了時等に，身に付けたい知識や技能を整理し，体系化する。

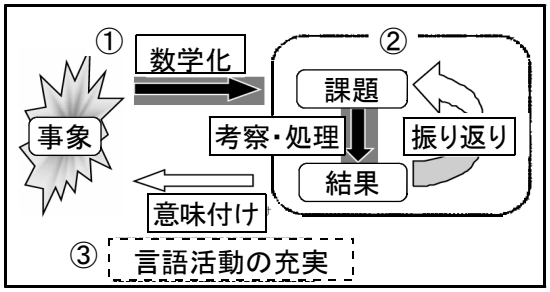
創造性の基礎を培う授業展開
数学の学習を通して，育てたい力を明確にする。

知的好奇心，豊かな感性，健全な批判力，直観力，洞察力，論理的な思考力，想像力，根気強く考え続ける力など

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

数学的活動を重視し，課題学習の充実



《主題を設定して行う学習の例》

① 生活と関連付け(活用)】
「二次関数」
文化祭の模擬店で利益を最大にする値段の設定の考察

② 【結果の振り返り(見いだす)】
「場合の数と確率」
三つの部屋に６人を割り振る方法を考えた後，条件を変えて再考察

③ 【言語活動の充実（伝え合う）】
「データの分析」
授業の終わりに四分位偏差の意味やポイントを生徒が発表

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○社会生活において，数学が活用されている場面を観察し，その合理性について理解する。
○世の中の現象や出来事について，数学的な観点から考察し，意見を発表し合う。

コミュニケーション能力を育む教育

○課題を与えてグループで力を合わせて問題解決を図る場面を設定する。
○証明問題について，分かりやすく板書，説明し，質疑応答の場面を設定する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域の文化財や工芸等について，それらを数学的に解釈し，よさを実感する。
○記数法や測量等の数学史的な話題を取り上げ，数学と人間とのかかわりを学習する。

（5） 理　　科

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

改訂後の設置科目

- 科学と人間生活（２）
- 物理基礎（２）　化学基礎（２）　生物基礎（２）　地学基礎（２）
- 物理　（４）　化学　（４）　生物　（４）　地学　（４）
- 理科課題研究（１）

必履修パターン①
「科学と人間生活」
と
「基礎」のうち１科目

必履修パターン②
「基礎」のうち３科目

※「物理」，「化学」，「生物」，「地学」は「基礎を付した科目」を履修した後に履修すること。
※「理科課題研究」は一つ以上の「基礎を付した科目」を履修した後に履修すること。

2 教科の目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な自然観を育成する。

ここがポイント！　中学校理科との関連を十分に考慮すること

3 各科目の内容（主な変更点等）

科学と人間生活		科学に対する興味・関心を高めるという観点から，人間生活にかかわりの深い内容で構成
物　理	「物理基礎」	「エネルギー」と関連付けて物理的な事物・現象を理解することを重視
	「物理」	新しい科学技術の基盤となっていることを理解する「物理が築く未来」を新設
化　学	「化学基礎」	「粒子」と関連付けて物質の性質の違いを理解する内容を充実
	「化学」	化学に関する研究分野との関連を重視して内容を再構成
生　物	「生物基礎」	「生命」と関連付けて「生物の共通性と多様性」の視点を重視
	「生物」	「遺伝子の発現」などについては，新しい生物学の知見を踏まえて内容を充実
地　学	「地学基礎」	「地球」と関連付けて，中学校の内容をより深化するように内容を構成
	「地学」	「膨張宇宙などの現在の宇宙像」など比較的新しい地学の内容を充実
理科課題研究		個人やグループで課題設定，大学や研究機関との連携，研究成果の発表などを重視

4 各科目に共通の留意事項

（１）観察・実験などの結果を分析し，それらを表現するなどの学習活動を充実する。
（２）生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度の育成を図る。
（３）環境問題，科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容は，科学的な見地から取り扱う。
（４）観察・実験では，事故防止，使用薬品の管理及び廃棄等について十分留意する。
（５）コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用する。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）中学校理科の学習内容を考慮し，高等学校理科へのスムーズな接続に配慮すること。
（２）観察・実験・探究活動などにおいて，結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し，それらを表現する学習活動の充実を図る。
（３）科学や科学技術の成果と日常生活や社会との関連に留意すること。
（４）大学や研究機関，博物館などと積極的に連携，協力を図ること。
（５）各科目及び数学や家庭科等の学習内容における相互の関連や系統性に留意すること。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

義務教育と高等学校との間の系統性を重視した授業展開
既習内容と関連付けて学習する。

観察・実験や自然体験，科学的な体験を重視した授業展開
「科学的な知識や概念」の定着
「科学的な見方や考え方」の育成

実社会・実生活との関わりを考慮した授業展開
知的好奇心や探究心をもたせる。

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

予想仮説 ▶ 観察実験 ▶ 分析検証 ▶ 発表

《学習の例》
○生徒が目的意識を持って観察・実験を行うために，予想や仮説を立て，それを検証するための実験方法を考える過程を取り入れる。
○実験・観察において計画(Plan)，実施(Do)，検証(Check)，改善(Action) のＰＤＣＡサイクルを取り入れ，失敗しても繰り返し取り組む機会を設ける。
○実験の結果から分かったことを発表し，討議する言語活動を行う。

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

科学的素養を幅広く養う
○「ものづくり」の面白さを実感できる科学工作を行う。
○野外活動を実施し，自然の大切さや地球環境について考察する。

コミュニケーション能力を育む教育

言語活動の充実
○プレゼンテーションソフトを用いた発表会を行う。
○観察・実験において，予想，検証，発表の各段階で互いに意見を交わす活動を行う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

科学の急速な進展への対応
○学校周辺の身近な自然を知るための野外活動を実施する。
○科学技術の発展の歴史と，今後の方向性，環境や生活に与える影響を考える。

（6）保　健　体　育

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

体育（７～８）
保健（２）
→ **２科目を必ず履修**

ここがポイント！

「体育」は，各年次の単位数がなるべく均分となるよう配当すること。
「保健」は，原則として入学年次及びその次の年次に各１単位を配当すること。

2　教科の目標

心と体を一体としてとらえ，健康・安全や運動についての理解と運動の合理的，計画的な実践を通して，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

ここがポイント！

高等学校では，１２年間の学校体育の完結として，卒業後に少なくとも一つの生涯スポーツ（マイスポーツ）をもたせて卒業させることが重要

小学校１年～小学校４年	小学校５年～中学校２年	中学校３年～高校それ以降の年次
各種の運動の基礎を培う時期	多くの領域の学習を経験する時期	卒業後に少なくとも一つのスポーツを継続できるようにする時期

3　各科目の内容（主な変更点等）

体　育
- ○ 発達段階に応じた指導内容を体系化・明確化し，各領域における具体を例示
- ○ 運動に関する領域を，(1)技能，(2)態度，(3)知識，思考・判断に整理・統合
- ○「公正，協力，責任，参画」など体育固有の内容を「態度」として明示
- ○「球技」は，運動種目の特性や魅力に応じて類型で規定
- ○「体つくり運動」・「体育理論」について，各年次の配当授業時数を規定

保　健
- ○ 個人生活及び社会生活における健康・安全に関する内容を重視
- ○ 医薬品に関する内容を改善し，「生涯を通じる健康」において充実

4　各科目に共通の留意事項

（１）心と体を一体としてとらえ，体育と保健を一層関連させて指導
（２）基礎的・基本的な知識・技能の習得と，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を重視
（３）コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し，主体的な学習活動を充実

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）主体的な学習のために，単元のはじめに課題解決の方法を確認する。
（２）「体育」では，練習中や練習後に話合いの時間を設ける。
（３）生涯スポーツの実践に向けては，男女共習を基本とする。
（４）特定の領域を希望する生徒に対し，学習の機会が確保されるよう年間指導計画を工夫する。

話合いのテーマを明確にし，体を動かす機会を確保する

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 技術の名称や行い方のポイントを把握しながら知識と技術を定着
  - *発問の工夫「技術のポイントを整理してみよう」*
- 体力の構成要素や高め方，実社会での活用の仕方を指導
  - *「施設・器具に頼らない運動例」*
- 知識と技能を相互に関連させた学習の工夫
  - *知識の重要性を強調*
- 気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，ＡＥＤの使用について理解
  - *心肺蘇生法は実習により理解*

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ **追究探究** ▶ **ゲーム発表**

《主題を設定して行う学習の例》

【作戦などの話合い】（体育）
「球技」
自己や仲間，チームの課題に応じた作戦の探求

【ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝの活用】（体育理論）
「ドーピング」
スポーツの文化的価値とドーピングの是非についての課題学習や討議

【ロールプレイングの実施】（保健）
「思春期と健康」
自分の行動への責任，異性を尊重する態度，情報への対処等に関する意志決定や行動選択について演習

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○明るく豊かで活力ある生活を送るために留意することを討論する。
○各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツライフを設計し，発表する。

コミュニケーション能力を育む教育

○ゲームに勝つための練習方法や作戦についてチームで協議し，発表し合う。
○ロールプレイングなどの実習を通して，自分の行動への責任感や異性を尊重する態度を養う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○国体開催競技など各地域の「シンボルスポーツ」を体験したり，調べたりする。
○武道を通して，我が国固有の伝統的な考え方や行動の仕方を理解する。

（7） 芸　　術

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

音楽Ⅰ（２）	一科目を必ず履修	音楽Ⅱ（２）	音楽Ⅲ（２）
美術Ⅰ（２）		美術Ⅱ（２）	美術Ⅲ（２）
工芸Ⅰ（２）		工芸Ⅱ（２）	工芸Ⅲ（２）
書道Ⅰ（２）		書道Ⅱ（２）	書道Ⅲ（２）

2 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して，生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，芸術の諸能力を伸ばし，芸術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

ここがポイント！

○「**芸術文化の理解**」を新たに規定，我が国の文化と伝統に関する教育を充実
○「**生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てること**」を明確化し，生涯学習社会の進展に対応

3 各科目の内容（主な変更点等）

音　楽

○ 「音楽を形作っている要素の知覚・感受」等を表現及び鑑賞の指導事項として新設
○ 我が国の伝統的な歌唱及び和楽器の指導，郷土の伝統音楽に関する鑑賞指導を充実

書　道

○ 書道Ⅰにおいて，「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の３分野すべてを学習
○ 書の伝統と文化に関する鑑賞指導の充実

著作物等を尊重する態度の形成

美　術

○ 指導内容を「発想・構想の能力」と「表現の技能」に分けて整理
○ 我が国の美術文化に関する鑑賞指導の充実

工　芸

○ 表現領域の指導内容を「身近な生活と工芸」と「社会と工芸」により再構成
○ 我が国の工芸の伝統と文化に関する鑑賞指導の充実

4 各科目に共通の留意事項

指導計画の作成に当たって

①系統的な学習への配慮
②科目の成果の積み上げ
③指導の効果の明確化
④他の科目との関連に配慮

主体的な学習態度の育成

①適切な時期に学習活動を設定
②課題設定の際の指導助言
③学習活動充実のための工夫
　例　課題に応じたグループ学習
　　学級全体での課題設定
　　学習成果の発表

指導上の工夫

①学校図書館の活用
②コンピュータや情報通信ネットワークの活用
③文化施設，社会教育施設，地域の文化財の活用
④地域の人材の活用

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）多様な活動の場を設定し，芸術への考え方を深めたり創造的な技能を高めたりする。
（２）表現と鑑賞の活動の関連を工夫し，芸術文化への理解を深め，尊重する態度を養う。
（３）言語活動を充実させ，芸術的な価値意識を互いに共有する場をもつ。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 材料・技術・方法・様式などについての知識や技能を高める活動の効果的な位置付け
- 音楽，美術，工芸，書の作品を鑑賞し，よさについて話し合うことを通して，芸術文化の価値への理解を深めたり，自分の考え方を広げたりする活動の設定
- 制作や鑑賞を通じて話し合う活動の位置付けを工夫し，多様な見方・考え方にふれる場を設定

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

- **音楽**における，グループごとに関心や能力に応じた楽曲を選択してのアンサンブル
- **美術**における，共生社会のための環境デザインや環境を視野に入れた彫刻
- **工芸**における，作家の工房や工場を見学するなど，量産品と市場調査とのかかわりなどについての体験的・問題解決的な学習
- **書道**における，グループごとにテーマを決めて，書こうとする言葉を選び言葉と表現とのかかわりなどについて批評し合う活動

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○音楽のよさや美しさを味わい，生涯にわたって音楽を愛好する心情を育み，生活を豊かなものにする。
○工業製品のデザインの社会的効果を理解することで，生活を豊かにしていこうとする心情を育む。
○書の役割を理解させ，毛筆や硬筆，デザインとしての書などを取り上げて書を大切にする態度を育てる。

コミュニケーション能力を育む教育

○音楽でのアンサンブルをつくり出す活動の中で，互いに話し合い，音楽性を高め合う。
○工芸品制作の伝統的な技術の継承についての考えを職人の考えも踏まえながら話し合う。
○表現したい言葉をグループで話し合って決め，書いた後にその意図やよさについて批評し合う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域の伝統音楽家による演奏を聴いたり，音楽づくりについての講話を聞いたりして，その良さを味わう。
○県内の美術館所蔵の作品について，学芸員の話を聞いたり，調べたりしてその良さを味わう。
○歴史的な書を所蔵している施設で，鑑賞したり学芸員の話を聴いたりしながら，そのよさを味わう。

（8）外　国　語

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

コミュニケーション英語基礎	（2）
コミュニケーション英語Ⅰ	（3）
コミュニケーション英語Ⅱ	（4）
コミュニケーション英語Ⅲ	（4）

英語表現Ⅰ	（2）
英語表現Ⅱ	（4）

英語会話	（2）

○「コミュニケーション英語Ⅰ」は共通必履修科目

○４領域の言語活動の統合を図るとともに，発信力の向上や中学校との円滑な接続を図る。

○文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ，文法指導を言語活動と一体的に行う。

2　教科の目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

3　各科目の内容（主な変更点等）

従前　語彙数1300語　→　新　1800語

コミュニケーション英語

○　「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の４技能を総合的に育成
○　基礎：中学校での学習内容の確実な定着と高校の学習への円滑な接続が目的
○　Ⅰ～Ⅲ：学習語彙の増加　従前1300語→新1800語

英語表現

○　「話すこと」「書くこと」に関する技能を中心に育成
○　即興で話す，発表，報告，討論及び論理の展開に気を付けながら書く等の活動が中心

英語会話

○　海外での生活に必要な基本的表現を使って会話力を育成

4　各科目に共通の留意事項

（１）言語の使用場面や働きを適切に組み合わせた指導及び４技能を総合的に育成するための統合的な指導を行うこと。
（２）学習した言語材料（語句，文構造，文法事項等）を，知識・理解の域にとどめるのではなく，場面に応じて適切に活用することができるよう，多様な活動を設定すること。
（３）情報や考えを的確に理解するとともに，理解したことに対して，自分の感想や意見，考え等を適切に伝える活動を設定すること。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（1）授業は英語で行うことを基本とする。

■ 授業スタイル

生徒が英語を多く使用する言語活動を中心とした授業。**生徒主体の英語による言語活動を授業の中心に据える。**

■ 教員の役割

指導内容説明，言語活動指示，手本提示，生徒の活動への励まし，講評等を英語で行う。その際，語句の選択，発話の速さ等，生徒の理解の程度に応じる。

■ 日本語の使用

文法説明等，教師の説明や指示が理解しにくい場合，日本語を交えた指導を行うことも考えられる。

（2）生徒のexposure（**英語にふれる機会**）とexperience（**体験活動**）を充実させる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

語義や文構造等を理解した上で，繰り返し練習し，知識の定着を図る授業展開

ドリル，音読等の反復練習

トピック，文化及び言語に関する背景知識の習得を促す授業展開

多読，多聴等のインプット活動等

言語の使用場面や働きを意識したり，論理の展開方法や効果的な表現方法等を学んだりする授業展開

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

理解 ▶ **整理 探究** ▶ **発表 論述**

《主題を設定して行う学習の例》

【プレゼンテーション】

聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考え等をまとめて発表

【要約】

英文を読んで，トピックセンテンスを把握するとともに，要点を整理し，要約

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○国際社会で活躍する人物を扱った教材を通して，在り方生き方を学ぶ。

○将来の夢について，実現するための具体的な手立ても含めながら英語で書く。

コミュニケーション能力を育む教育

○読んで理解した内容について，ペアで意見を交換する。

○ある論題について，論点や根拠を明確にしながら，グループで討論する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○外国の伝統や文化に関する教材を通して，自国との類似点・相違点を書く。

○地域の伝統行事について，グループでまとめ，ＡＬＴに紹介する。

（9） 家　　庭

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

家庭基礎（２）
家庭総合（４）
生活デザイン（４）

※　３科目のうち１科目が必履修科目となる。
　○　「家庭基礎」は原則として**同一年次**で履修
　○　「家庭総合」，「生活デザイン」を複数の年次にわたって分割して履修させる場合には，原則として**連続する２か年**において履修

2 教科の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに，生活に必要な知識と技術を習得させ，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

ここがポイント！

（１）人間の生涯にわたる発達
　人の一生を「時間軸」としてとらえ，生活資源や生活活動にかかわる事柄を「空間軸」としてとらえる。各ライフステージの課題と関連付けて理解させること。

（２）主体的
　共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意志決定能力を身に付け，男女が協力して家庭や地域の生活を創造できるようにすること。

3 各科目の内容（主な変更点等）

家庭基礎
○人の一生を見通しながら自立して生活する能力と，異なる世代とかかわり，共に生きる力を育てることを重視

家庭総合
○家庭や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえることを重視

生活デザイン
○実験・実習等の体験学習を重視
○衣食住の生活文化に関心をもたせ，生活の価値や質を高め，豊かな生活を楽しみ味わう上で必要な実践力の育成を重視

4 各科目に共通の留意事項

（１）総授業時数のうち，原則として**１０分の５以上**を実験・実習に配当
（２）中学校技術・家庭科，公民科，数学科，理科及び保健体育科などとの**関連を図る**とともに，教科の目標に即した調和の取れた指導が行われるように留意

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）問題解決的な学習を充実する。
（２）他者とかかわる力を高める活動，言葉や概念などを用いて考察する活動，理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実する。
（３）家庭科の特質を生かした食育の充実を図る。
（４）各科目の指導においては，コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する。
（５）実験・実習においては，安全と衛生に十分留意する。

指導方法の工夫・改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得

生活上の課題を見い出し，解決方法を考え，計画を立てて実践できる授業展開

計画的・系統的な取組

生活における事象等を説明する活動，協同的な関係を築くような活動，ものづくりなどを行う授業展開

レポート作成・論述
実践的・体験的活動の重視

コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図る活動の工夫

情報の収集，処理，分析，発信

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ 創造実践 ▶ 発表論述

《学習の例》

【ホームプロジェクト】
テーマ設定の例：
「環境を守る第一歩，できることから始めよう～ピンチな家計と環境のために～」（第30回全国高校生ホームプロジェクトコンクール最優秀賞受賞作品）

【学校家庭クラブ】
活動の例：
・家庭クラブ通信の発行
・特別養護老人ホーム等訪問
・地域の保育所・障害者作業所・障害児施設における託児ボランティア，夏休み体験実習　等

３つの基軸に視点を置いた取組の例

キャリア教育

○人の一生を生涯発達の視点でとらえ，ライフステージの特徴と課題について発表し合う。
○ライフスタイルや将来の家庭生活と職業生活の在り方について考え，生活設計を立案する。

コミュニケーション能力を育む教育

○子どもや高齢者など様々な人々との触れ合う活動を行う。
○資源や環境に配慮した生活が営めるよう，ライフスタイルの工夫について発表し，質疑応答の場面を設定する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域の衣食住の文化について調べ，先人の知恵や文化に関心をもつ。
○自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を考察し，課題解決を図る。

（10） 情　　報

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

社会と情報（２）
情報の科学（２）
→ **１科目を必ず履修**

※　義務教育段階において情報手段の活用経験が浅い生徒の履修を想定して設置した「情報Ａ」については発展的に解消

2　教科の目標

内容的には従前と同じ

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ，情報に関する科学的な見方や考えを養うとともに，社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ，社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

ここがポイント！「情報活用の実践力」の育成を「生きる力」の育成につなげる。

3　各科目の内容（主な変更点等）

社会と情報

○情報社会に積極的に参画する態度を育てることを重視
○情報の特徴，情報化が社会に及ぼす影響の理解
○情報モラルを身に付ける学習活動を重視
○情報の収集，処理，表現に情報機器を活用する学習活動を重視
○効果的なコミュニケーションを行うために情報通信ネットワークを適切に活用する学習活動を重視

情報の科学

○情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てることを重視
○情報社会を支える情報技術の役割や影響の理解
○情報モラルを身に付ける学習活動を重視
○情報と情報技術を効果的に活用し問題解決を行う学習活動を重視
○論理的な考え方・科学的な考え方を身に付ける学習活動を重視

4　各科目に共通の留意事項

（１）中学校における情報教育との関連に留意

高等学校段階	情報及び情報技術を適切に活用するために必要な知識と技能を確実に身に付けさせる。
	健全な倫理観や安全に配慮する態度を育成する。

（２）他の教科・科目との連携に留意

情報科での学習が他の教科・科目等の学習に役立つよう，他の各教科・科目の目標及び内容に即してコンピュータを活用した実習を取り入れる。

（３）体験的な学習の重視

実践的な情報活用能力を身に付けるために実習を積極的に取り入れる。

（４）言語活動の重視（【情報モラル】【情報社会の課題】の学習において）

生徒が主体的に考え，討議し，発表し合うことを通して理解を深める。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）体験的な学習を重視し，情報手段を活用した実習を積極的に取り入れる。
（２）生徒が主体的に考え，討議し，発表し合う活動を取り入れ，言語活動の充実を図る。
（３）具体的な事例を取り上げ，それについて考える活動を多く取り入れ，情報モラル教育の充実を図る。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

情報機器・情報通信ネットワーク・ソフトウェアの操作方法や活用方法を身に付ける実習

ワープロ・表計算・プレゼンテーション
画像処理・ホームページ作成・電子メール・インターネット検索

新聞記事等を活用し，時事的な話題を取り上げ，情報社会の現状を理解させる授業展開

情報技術・情報モラル

情報技術や情報処理の原理・仕組みを理解する学習

情報のディジタル化・モデル化
通信プロトコル・情報セキュリティ

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

情報収集 ▶ **情報処理** ▶ **表現発表**

《学習の例》

【情報社会の課題と情報モラル】
（社会と情報）
「情報化が社会に及ぼす影響と課題」
社会で問題となっていることの実態や原因について調べさせ，それを改善する方法について互いに発表させる。

【情報の管理と問題解決】（情報の科学）
「情報の蓄積・管理とデータベース」
グループ等で取り組む問題解決型の学習活動を行い，問題解決の過程で情報通信ネットワークやデータベース等を活用した情報の収集，整理，分析，判断，表現，創出，発信，共有等の活動を取り入れる。

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○情報機器を活用する技能を身に付けるための実習を行い，情報化の進む社会に参画する。
○情報通信ネットワークを活用し，自分の進路について調べる。

コミュニケーション能力を育む教育

○調べた内容を発表し，討議する活動の場面を設ける。
○Webページや電子メールでの情報伝達について，情報社会でのルールやマナーを考察する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○情報技術の発展の歴史や生活の情報化の状況を取り上げ，地域や伝統，文化に与える影響等に係る課題を設定する。

（11） 農　　業

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

原則履修科目	新設科目	整理統合科目
農業と環境（２～６）	**水循環（２～６）**	**農業と環境（２～６）**
課題研究　（２～６）	**環境緑化材料（２～６）**	**微生物利用（２～６）**
		林産物利用（２～８）

2　教科の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに，農業に関する諸課題を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって解決し，持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

3　各科目の内容（主な変更点等）

農業と環境

○ 農業生物の育成と環境保全，創造について関連付けて学習
○ 農業及び環境学習に対する意欲の醸成
○ 課題解決型学習のおもしろさを実感させることが必要

微生物利用

○ 食品に関連する微生物の利用と制御及び微生物に関するバイオテクノロジーについて学習
○ 農業の各分野で微生物バイオテクノロジーを利用する能力と態度を育成
○ 微生物の形態的特徴と生理的特性を理解するとともに，バイオテクノロジーの応用を図る実践力を育成

林産物利用

○ 林産物の加工と利用について学習
○ 木材など林産物の生産，加工利用に応用できる体系的な知識と技術の習得
○ 木材の構造と性質を理解させ，木材の多用な利用を図る実践力を育成

水環境

○ 地球上で絶えず循環する水について学習
○ 森林・河川・農地と流出との関係や生態系との関係，水と農業や生活との関係について体系的に学習
○ 環境と調和した水資源の確保と水を総合的に制御し，適正利用する実践力を育成

環境緑化材料

○ 環境緑化のための植物の育成や造園空間の構成に使用する材料について学習
○ 造園を中心とした環境創造と素材生産分野における自らの職業生活について考察

4　各科目に共通の留意事項

（１）地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を取り入れる。
（２）コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する。
（３）関連する法規等に従い，施設・設備や薬品等の安全管理を行う。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）実験・実習に配当する時間を十分に確保する。
（２）各科目の学習内容は，生徒の実態を考慮し，地域の農業等の実態，学科の目標や特色などに応じて選定する。
（３）ホームプロジェクト及び学校農業クラブの活動を利用して学習の効果を上げる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 農業生物の育成と環境保全・創造に関する内容を関連付ける授業展開
  - *栽培や飼育，環境の調査などを継続的に実施*
- 理科や農業の科目の学習内容を関連付けて，体系的に知識の定着を図る授業展開
  - *教科書内の図や表の活用*
- 実験や実習など体験的学習を通じて，知識・技能の定着を図る工夫
  - *実験・実習後の報告書の作成*

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ 調査研究 ▶ 発表論述

【プロジェクト学習を取り入れた授業】
①目的を立てる　（課題設定）
②目的達成のための計画を立てる　（計画立案）
③計画に従って実行する　（実施）
④実行の過程や結果を検討する　（反省･評価）

【実践的な取組の導入】
①現場実習の実施
②企業的な課題への取組
③学習活動としての交流活動への取組

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○農家や産業現場等における長期の実習に取り組む。
○地域や産業界の人々を社会人講師として活用する。

コミュニケーション能力を育む教育

○課題研究等の成果の発表会で，質疑応答の場面を設定する。
○小・中学校等との交流で，専門的知識・技術を教える機会を設ける。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○農村や食の文化等について日本や世界，自分の地域と比べる。
○農業や農山村の多面的機能や地域資源の有用性について理解を深める。

(12) 工　　業

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

○ 各学科において共通に履修させる科目・・・ ２科目

→原則履修科目：「工業技術基礎（２～４）」，「課題研究（２～４）」

○ 各学科において共通的な基礎科目・・・・・ ４科目

○ 各学科において選択的な基礎科目・・・・・ ５科目

→新設：「環境工学基礎（２～４）」

○ 工業の各分野に関する科目・・・・・・・・ 50科目

→科目名変更：「コンピュータシステム技術（２～８）」

2 教科の目標

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに，環境及びエネルギーに配慮しつつ，工業技術の諸問題を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって解決し，工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

ここがポイント！

環境問題及びエネルギー問題に配慮し，技術者倫理を確実に身に付け，実践的な技能をあわせもった技術者の育成

3 各科目の内容（主な変更点等）

環境工学基礎（新設）

○工業の各分野における産業と環境の関係や環境の保全技術などの環境工学に関する知識と技術を習得

○環境に関する調査，評価，管理に活用する能力と態度を育成

コンピュータシステム技術（科目名変更）

○情報処理システムの分析，設計，構築，運用などのコンピュータシステムに関する知識と技術を習得

○ネットワークシステム，データベースシステム，マルチメディアシステムにおける分析，設計，構築，運用，保守などを活用する能力と態度を育成

4 各科目に共通の留意事項

（１）基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し，活用できる力を育成

（２）主体的に学習に取り組む態度と職業人として必要な人間性を醸成

（３）規範意識，倫理観をもって，課題解決を図ることができる工業技術者を育成

（４）ものづくりにおける共同作業などを通して，言語活動の充実を図り，コミュニケーション能力，協調性などを育成

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）ものづくりに関する基礎的・基本的な技術及び技能を確実に身に付けさせる。
（２）実験・実習などの体験的な学習を一層重視する。
（３）コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り，学習の効果を高める。
（４）地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動を積極的に取り入れる。
（５）工業技術者として求められる使命と責任について理解させる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 現代社会における工業の意義や役割を把握しながら知識や技術・技能の定着を図る授業展開
  「どのようなものをいかに作るか」
- 安全・安心な新しいものづくりを創造するために必要な知識や技術・技能の定着を図る学習活動の工夫
  「目指す工業技術者の明確化」
- 技術の高度化等に対応する資料を活用した学習活動の工夫
  「実際的なものづくりに関する知識」
- 示範実験・教示実習を活用した学習活動を導入
  「生徒の実態（既習内容，興味・関心）」

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ **追究探究** ▶ **発表論述**

《課題を設定して行う学習の例》

○地域産業の調査や見学，産業人材を活用し，将来の産業人材としてあるべき姿を考察

○工業製品について，資源の節約やリサイクルを踏まえ，今後の環境やエネルギーの活用について考察

○安全で信頼性のあるものづくりの観点から，法規を遵守し技術者としての望ましい規範意識や倫理観について考察

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

地域産業や地域社会との連携や交流を促進

○地元企業等における就業体験を積極的に導入する。
○社会人講師を活用した講話や技術・技能指導をする。

コミュニケーション能力を育む教育

理論的に思考し表現する能力の育成

○実験や実習における共同作業等を実施する。
○課題研究における成果発表会を開催する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

地域産業や地域社会を理解

○地域の工業に関する先人や歴史を考察する。
○実習等を活用した伝統技法や熟練技能を継承する。

（13） 商　　業

1　設置科目及び履修要件

（標準単位：２～４単位　ただし簿記は２～６単位）

分　　野	科　　目	分　　野	科　　目
基礎的科目	**ビジネス基礎**	会計分野	**簿記** **財務会計Ⅰ** **財務会計Ⅱ** **原価計算** **管理会計** 新設
総合的科目	**課題研究** **総合実践** **ビジネス実務**		
マーケティング分野	**マーケティング** **商品開発** 新設 **広告と販売促進**	ビジネス情報分野	**情報処理** **ビジネス情報** **電子商取引** **プログラミング** **ビジネス情報管理** 新設
ビジネス経済分野	**ビジネス経済** 新設 **ビジネス経済応用** **経済活動と法**		

2　教科の目標

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，ビジネスの意義や役割について理解させるとともに，ビジネスの諸活動を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって行い，経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

（１）ビジネスの理解力と実践力をつける。

顧客満足実現能力，ビジネス探求能力，会計情報提供・活用能力，情報処理・活用能力

（２）ビジネスに必要な豊かな人間性を養う。

倫理観，遵法精神，規範意識，責任感，協調性など

→ 地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う産業人の育成

3　各科目の内容（新設）

商品開発

○ 顧客満足の実現をめざす商品を企画・開発・提案し，流通活動を実施

○ 商品の企画，商品の開発，商品開発とデザイン，商品開発と知的財産権などで構成

ビジネス経済

○ 具体的な経済事象を，基礎的な経済理論と関連付けて考察

○ ミクロ経済理論（需要や供給など），マクロ経済理論（景気循環経済政策など）で構成

管理会計

○ 会計情報を経営管理に活用

○ 直接原価計算，短期利益計画，予算編成と予算統制などで構成

ビジネス情報管理

○ 企業内の情報通信ネットワークの構築や情報システムの開発を行い業務の合理化を推進

○ 情報通信ネットワークの構築と運用管理，ビジネス情報システムの開発などで構成

4 各科目に共通の留意事項

（１） 地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を積極的に取り入れる。
（２）社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努める。
（３）実験・実習を行うに当たっては，施設・設備の安全管理に配慮する。
（４）事故防止の指導を徹底し，安全と衛生に十分留意する。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

授業実施に当たっての留意点

（１）「体験的学習」を通して「実践力」を身に付けさせる。
（２）コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用し学習効果を高める。
（３）実習の成果や課題をまとめた報告書の作成や発表など言語活動の充実を図る。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

具体的事例を用いて，具体的なビジネスの諸活動と結びついた知識と技術の定着を図る授業展開
発問の工夫「なぜ～なのか」

グループ活動による研究の機会や討論，発表を取り入れた授業展開
プレゼンテーションの工夫

新聞，放送，インターネットを活用した学習活動の工夫
分析・説明・討論

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

主題設定 ▶ 追究探究 ▶ 発表論述

《主題を設定して行う学習の例》

【商品の企画】（商品開発）
「商品コンセプトの立案」
ネーミングから入る商品企画書（グループ企画）の作成，発表

【経済成長と景気循環】（ﾋﾞｼﾞﾈｽ経済）
「国内総生産と物価」
新聞・ネットを活用して具体的な経済事象を考察（例：ﾃﾞﾌﾚｰｼｮﾝの影響）

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○我が国の新たなビジネス展開の現状の考察を通して新ビジネスを考案する。
○地元企業や商店街と連携した長期のインターンシップに取り組む。

コミュニケーション能力を育む教育

○新聞やネットからの経済事象についてレポートにまとめ，グループ討論する。
○グループによる調査や研究活動を通して，地元商店街関係者への提案を行う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域に伝わる伝統産業について調査し，理解を深める。
○地域の伝統，文化を活用した地域活性化案をグループで提案し発表を行う。

（14） 水　　産

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

○原則履修科目

水産海洋基礎（２～７）
課題研究　　（２～６）

○新設科目

水産海洋科学　（２～４）
マリンスポーツ（２～４）

○内容の改善を図った主な科目

水産海洋基礎（２～７）	海洋情報技術（２～６）	船舶運用（４～１２）
移動体通信工学（２～８）	海洋通信技術（２～１０）	電気理論（２～１０）
資源増殖（２～１０）	海洋生物（２～８）	小型船舶（２～６）
食品製造（２～１２）	食品管理（２～１２）	

2　教科の目標

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに，水産や海洋に関する諸課題を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって解決し，持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

3　各科目の内容（主な変更点等）

水産海洋基礎
- ○ 海洋に関する内容を多く導入
- ○ 水産や海洋の基礎的な知識と技術を重点化
- ○ 水産業や海洋関連産業に従事する者の使命や責任感を醸成

水産海洋科学
- ○ 「水産海洋基礎」の学習を基に，さらに広く深く海洋について学習
- ○ 水産や海洋に関する諸課題について科学的に探究

マリンスポーツ
- ○ 海や河川において，法やマナーの遵守
- ○ 海洋等における諸活動を円滑かつ安全に行うことができる人材の育成

海洋情報技術
- ○ 地球温暖化や気候変動等の海洋環境などより広く海洋情報を学習

船舶運用
- ○ 「漁船運用」の内容を再構成し，船舶全体を扱うなど内容を充実

電気理論
- ○ 水産や海洋における半導体，回路，電気・電子に関する内容を総合的に学習

資源増殖
- ○ 「栽培漁業」の内容を再構成し，沿岸漁業の資源管理を取り入れるなど水産増養殖に関する学習の充実

海洋生物
- ○ 「水産生物」の内容に，海洋に生息する未利用の資源を含めた生物を幅広く学習

4　各科目に共通の留意事項

（１）地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を導入
（２）コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用
（３）関連する法規等に従い，施設・設備や薬品等の安全管理
（４）各乗船実習を行う際は，綿密な計画を立て，所属の実習船により安全で効果的な実習を実施

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）実験・実習に配当する時間を十分に確保する。
（２）各科目の学習させる内容は，生徒の実態を考慮し，地域の実態，水産業界の動向，学科の目標や特色などに応じて選定する。
（３）ホームプロジェクト活動を利用して学習の効果を上げる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

海洋生物の育成と環境保全・創造に関する内容を関連付ける授業展開
海洋の調査などを継続的に実施

理科や水産の科目の学習内容を関連付けて，体系的に知識の定着を図る授業展開
映像や写真，図や表の活用

実験や実習など体験的学習を通じて，知識・技能の定着を図る工夫
実験・実習後の報告書の作成

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ 調査研究 ▶ 発表論述

【プロジェクト学習を取り入れた授業】
①目的を立てる　（課題設定）
②目的達成のための計画を立てる　（計画立案）
③計画に従って実行する　（実施）
④実行の過程や結果を検討する　（反省･評価）

【実践的な取組の導入】
①現場実習の実施
②企業的な課題への取組
③学習活動としての交流活動への取組

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○産業現場等における長期の現場実習に取り組む。
○地域や産業界の人々を社会人講師として活用する。

コミュニケーション能力を育む教育

○課題研究等における成果を発表し合う。
○小・中学校等との交流で，専門的知識・技術を教える機会を設ける。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○魚食文化等について，日本や世界，自分の地域とを比べる。
○海洋の役割や地域資源の有用性について理解を深める。

（15） 家　　庭

1 設置科目及び履修要件

原則履修科目「生活産業基礎」「課題研究」

改訂前（19科目）		改訂後（20科目）
生活産業基礎		生活産業基礎
課題研究		課題研究
家庭情報処理	名称変更	生活産業情報
消費生活		消費生活
発達と保育	名称変更	子どもの発達と保育
児童文化	名称変更	子ども文化
家庭看護・福祉	名称変更	生活と福祉
リビングデザイン		リビングデザイン
服飾文化		服飾文化
被服製作	２科目に整理分類	ファッション造形基礎
		ファッション造形
ファッションデザイン		ファッションデザイン
服飾手芸		服飾手芸
フードデザイン		フードデザイン
食文化		食文化
調理		調理
栄養		栄養
食品		食品
食品衛生		食品衛生
公衆衛生		公衆衛生

2 教科の目標

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに，生活産業を取り巻く諸課題を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって解決し，生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

ここがポイント！

「生活産業」のスペシャリストを育成する視点が一層明確になった。

3 各科目の内容（主な変更点等）

生活産業情報

○生活産業の各分野において情報モラルやセキュリティ管理に留意し，情報機器や情報通信ネットワークを活用することを重視する。

子どもの発達と保育

○保育所保育指針の改訂などに対応して発達過程の考えを重視する。
○子育て支援の必要性に対応した内容とする。

子ども文化

○伝統的な児童文化とともに，現代の生活に基づく子どもの遊び表現活動を広く取り上げて充実する。

生活と福祉

○介護予防と自立生活支援に関する内容を充実する。

ファッション造形基礎

○基礎的・基本的な内容とする。

ファッション造形

○発展的な内容とする。

※　被服製作の基礎から応用までを体系的に学び，被服製作に対する関心を高める。

4　各科目に共通の留意事項

（１）家庭に関する学科においては，原則として家庭に関する科目に配当する総授業時数の１０分の５以上を実験・実習に配当する。
（２）地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を積極的に導入するとともに，社会人講師を積極的に活用する。
（３）コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図る。
（４）実験・実習においては，安全と衛生に十分留意する。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）実験・実習に配当する時間を十分に確保する。
（２）各科目の学習させる内容は，生徒の実態を考慮し，学科の目標や特色，生徒の必要などに応じて選定する。
（３）ホームプロジェクト及び学校家庭クラブの活動を利用して学習の効果を上げる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

生活産業に関する専門的な学習への動機付けや，問題解決能力及び創造性を育成する授業展開
- *高度な技術が必要な作品製作*
- *企画の提案*

実験・実習の充実による創造性や問題解決能力の育成を図る授業展開
- *実験，調査，観察，見学，現場実習等*

地域等との連携を取り入れた学習活動
- *就業体験*
- *社会人講師等の活用*

コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図る活動の工夫
- *他の学校や地域との情報の交流*
- *学習成果の発表*

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ **創造実践** ▶ **発表論述**

《学習の例》

【ホームプロジェクト】
テーマ設定の例：
「生活改善で深まった家族の絆～祖母と私の二人三脚～」（第57回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会全国家庭科教育協会賞入賞作品）

【学校家庭クラブ】
テーマ設定の例：
「豊かに老いるために～「食」を通した心の通い合う高齢者との交流活動～」（第52回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会県教育委員会教育長賞入賞作品）

【家庭科技術検定】
例：被服製作技術検定　１級
　　食物調理技術検定　１級

【課題研究】
テーマの例：創作コスチューム「雪の結晶」（第15回全国高校生ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞｺﾝｸｰﾙ文部科学大臣賞受賞作品）

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育
○地域や産業界の人々を社会人講師として活用する。
○職業の現場における長期間の実習を行う。

コミュニケーション能力を育む教育
○多様性・選択の自由の拡大へ向かっている消費者のニーズを的確にとらえる。
○子どもや高齢者とかかわることにより，心理等を理解する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育
○郷土料理や服飾の変遷などの調査，研究，実験及び作品製作，産業現場等における実習を組み合わせる。
○特徴的な住居様式から気候風土と住居のかかわりを考える。

（16） 看　　護

1 設置科目及び履修要件

改訂前	→	改訂後
基礎看護	変更なし	基礎看護
看護基礎医学	整理分類	人体と看護
		疾病と看護
		生活と看護
成人・老人看護	整理分類	成人看護
		老年看護
		精神看護
		在宅看護
母子看護	整理分類	母性看護
		小児看護
	新設	看護の統合と実践
看護臨床実習	名称変更	看護臨地実習
看護情報処理	名称変更	看護情報活用

ここがポイント！

○看護師養成制度に伴なうカリキュラム改正に対応
→保健師助産師学校養成所指定規則に留意

2 教科の目標

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに，国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる。

ここがポイント！

（１）**看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させること。**
これを基に生涯にわたって学び続けていく態度を育成する。
（２）**看護の本質と社会的な意義を理解させること。**

3 各科目の内容（主な変更点等）

基礎看護

看護倫理，医療安全，看護管理，災害看護，フィジカルアセスメントの基本技法，コミュニケーション技術等についての内容拡充

人体と看護　**疾病と看護**　**生活と看護**

看護に関する専門分野の学習の基礎となる内容を整理分類し，それぞれ独立した科目とする。
「人体と看護」人体の構造と機能，栄養，感染と免疫
「疾病と看護」疾病の成り立ちと回復の過程，薬物と薬理
「生活と看護」精神保健，生活と健康，社会保障制度と福祉

成人看護　**老年看護**　**精神看護**　**在宅看護**

高齢化の進展等に伴ない「老年看護学」の専門領域の教育内容を充実するために，また，医療の高度化，患者の重症化により，対象の様々な状態・状況に対応するため，「成人看護」「老年看護」「精神看護」「在宅看護」を独立した科目とし，それぞれの分野の専門性に応じて内容を充実

母性看護　**小児看護**

各専門領域の内容を充実するために「母性看護」「小児看護」を独立科目としそれぞれの分野の専門性に応じて内容を充実

看護の統合と実践

看護に関する各科目で習得した基本的な看護の知識と技術を臨床実践に活用できるよう統合させるもの

4 各科目に共通の留意事項

（１）原則として看護に関する科目に配当する総授業時数の１０分の５以上を実験・実習に配当する。
（２）地域や福祉施設，産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を積極的に取り入れるとともに，社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努める。
（３）コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する。
（４）実験・実習を行うに当っては，事故防止の指導の徹底，安全と衛生に留意する。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）医療の高度化，患者の高齢化・重症化等に対応する。
（２）看護師養成制度に伴なうカリキュラム改正に対応する。
（実験・実習に配当する授業時数の確保，生徒の実態に応じた配慮，臨地実習等の充実）

指導方法の工夫・改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 生徒の向上心を喚起し，自発的・創造的な学習態度を育成する授業展開
  - *・講義と実習の一体的な学習*
- 実験・実習の充実による課題探究能力や問題解決能力の育成を図る授業展開
  - *・臨床に近い状況を想定した学習*
- 地域等との連携を取り入れた学習活動
  - *・様々な施設での実習*
  - *・社会人講師等の活用*
- 情報機器及び情報通信ネットワークの活用
  - *・各種メディアの活用*

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ **調査研究** ▶ **発表論述**

《学習の例》

- ●模擬患者（ペーパーペイシャント）を用いた演習
- ●シミュレーターを活用した校内実習
- ●医療事故等を想定したロールプレイ
- ●災害看護等に携わっている外部講師による講義や講演
- ●電子カルテや電子温度板など検査や診断で使われている医療電子機器やコンピュータの利用

↓

- ・専門性の高い看護判断能力の育成
- ・安全で確実な看護技術の習得
- ・豊かな人間性を身に付けた人材育成（看護倫理・コミュニケーション能力・人権を尊重する態度など）

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○基礎・専門科目で履修した内容を臨床で活用するため，チーム医療，看護管理，医療安全等を学ぶとともに，複数患者の受持ちや一勤務帯での実習を行う。
○医療施設だけでなく看護の実施されている様々な施設での実習を行う。

コミュニケーション能力を育む教育

○チーム医療及び他職種との協働の中でのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。
○各分野での患者等との適切な人間関係を形成するためのコミュニケーション能力やアセスメント能力を強化する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域で生活しながら療養する人々とその家族に対する理解を深める学習を行う。
○訪問看護ステーションなどの施設のほか，地域保健センターなど多様な施設での実習を行う。

（17） 情　　報

1　設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

○原則履修科目

「情報産業と社会（２～４）」，「課題研究（２～４）」

○新設科目

「情報と問題解決（２～４）」，「情報テクノロジー（２～４）」，「データベース（２～６）」，「情報メディア（２～６）」

○整理統合した科目

「表現メディアの編集と表現（２～６）」

○名称を変更した科目

「情報の表現と管理（２～４）」，「アルゴリズムとプログラム（２～６）」，「情報デザイン（２～６）」，「情報システム実習（４～８）」，「情報コンテンツ実習（４～８）」

2　教科の目標

情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに，情報社会の諸課題を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって解決し，情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

ここがポイント！

（１）情報技術の進展や情報産業の構造の変化等への対応

（２）情報の各分野の学習で習得した知識と技術を総合的に活用するとともに，情報社会の諸課題を適切に解決する能力や態度の育成への対応

（３）職業人としての倫理観や遵法精神などの育成への対応

3　各科目の内容（新設）

情報と問題解決

○ 情報や情報手段を活用した問題の発見から解決までの過程において，必要となる基礎的な知識や技術を習得させる。

○ 情報や情報手段を活用し，問題解決の過程と結果を評価する能力と態度を育む。

情報テクノロジー

○ 情報産業を支える情報技術の基礎的な知識と技術を確実に習得させる。

○ 情報の各分野における学習の基盤として，コンピュータ等を活用した実習などを通して，実際に適切かつ効果的に活用できるように，実践的な能力と態度を育む。

データーベース

○ データベースシステムを開発するために必要となるデーターベースに関する基礎的な知識や技術を習得させる。

○ データーベースの設計や運用管理にたずさわる人材の育成を図る視点から，データベースの設計などを通して，情報の質や信頼性を確保することができる実践力を高める。

情報メディア

○ 情報コンテンツの制作・発信を適切に行うために必要な情報メディアの特性等を理解させる。

○ 実際に適切かつ効果的に活用できるように，実践的な能力と態度を育む。

4　各科目に共通の留意事項

（１）情報手段の活用に当たっては，様々な地域や産業界との情報の共有・交流を踏まえた教育活動を展開する。

（２）情報手段を積極的に活用し，生徒の学習に対する興味や関心を高め，生徒自らの情報発信能力を育成する。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）体験的な学習活動を重視し，情報手段を活用した実践的な実習を積極的に取り入れる。

（２）職業倫理や規範意識の定着を図る指導の充実に努める。

（３）就業体験を積極的に取り入れ，社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努める。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

現代社会における情報の意義や役割を把握しながら知識や技術・技能の定着を図る授業展開

「情報化の進展」への対応

各科目の目標に即し，体験的な学習を重視した知識や技術・技能の定着を図る授業展開

「情報手段の積極的な活用」

各科目の学習内容の理解を図る情報コンテンツを活用した授業展開

「生徒の実態（既習内容，興味・関心）」

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

課題設定 ▶ **追究探究** ▶ **発表論述**

《課題を設定して行う学習の例》

○情報技術の進展による新たな情報産業の創出，情報産業の構造の変化についての考察

○社会的責任を負う情報技術者として職業倫理に則り，関係する法令を遵守する必要性について発表・討議

○情報産業における情報モラルについて討議

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○専門に関する社会人講師を活用した授業を行う。

○情報産業が社会の情報化に果たしている役割の重要性について考える。

コミュニケーション能力を育む教育

○グループなどによる簡易な情報システムの開発実習を行う。

○情報伝達手段である文字，図形，音，静止画，動画などのメディアの特性と役割について考察する。

地域や伝統・文化を踏まえた教育

○地域の先人や歴史についての照会サイトを作成する。

○社会の情報化の進展と，手紙，電話，電子メール等の情報伝達手段の移り変わりについて調べる。

（18） 福　　祉

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

改訂前	⇨	改訂後
社会福祉基礎	整理統合	**社会福祉基礎（２～６）**
社会福祉制度		
基礎介護	名称変更	**介護福祉基礎（２～６）**
社会福祉援助技術	名称変更	**ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術（２～６）**
――――	新　　設	**生活支援技術（２～12）**
――――	新　　設	**介護過程（２～６）**
社会福祉演習	名称変更	**介護総合演習（２～６）**
社会福祉実習	名称変更	**介護実習（２～16）**
――――	新　　設	**こころとからだの理解（２～12）**
福祉情報処理	名称変更	**福祉情報活用（２～６）**

（原則履修科目「社会福祉基礎」「介護総合演習」）

ここがポイント！

○介護分野における多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材の育成や介護福祉士に係る資格制度の改正等に対応する観点から改善

○介護福祉士の養成施設として指定を受けた学科等については，平成２１年度から新学習指導要領で実施

2 教科の目標

（従前と同様）

社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的，体験的に習得させ，社会福祉の理念と意義を理解させるとともに，社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し，社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。

ここがポイント！

○社会福祉施設の見学，実験・実習，調査研究，日常的な実践活動などの実際的・体験的な学習を通して，活用できる知識と技術を総合的に身に付けさせる。

○社会福祉教育においては，専門的な知識と技術の基礎の上に，社会福祉の理念と意義を理解させることが重要である。

3 各科目の内容（新設）

生活支援技術

○ 自立を尊重した生活を支援するための介護に関する知識と技術を習得する内容を充実

○ 適切な介護技術を用いて安全に支援できる能力と態度を育む学習を重視

介護過程

○ 福祉に関する他の科目で学習した知識と技術を統合して，介護過程を展開し，適切な介護が提供できる能力を養う内容を充実

こころとからだの理解

○ こころとからだについての基礎的な知識を習得する内容を充実

○ 社会的に重要性を増している高齢者や認知症，障害について基礎的な理解を深め，これからの介護ニーズに対応できる能力を育む学習を重視

4　各科目に共通の留意事項

（１）原則として福祉に関する科目に配当する総授業時数の１０分の５以上を実験・実習に配当すること。

（２）介護実習及び具体的な事例の研究や介護計画作成においては，サービス利用者の人間としての尊厳の保持，自己実現の尊重などに基づく人間理解を基本とし，プライバシーの保護については十分留意させるとともに，関係機関の協力が得られるよう配慮すること。

（３）地域や福祉施設，産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を積極的に取り入れるとともに，社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

授業実施に当たっての留意点

（１）実験・実習を重視して，知識・技術を実際に活用できる実践力の育成に努める。

（２）課題研究や事例研究を通して，問題解決能力や自発的，創造的な学習態度の育成に努める。

（３）報告書の作成や発表，事例研究等の成果の発表などの言語活動の充実に努める。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 社会福祉施設の見学，介護実習などの実際的・体験的な学習の導入
- 社会福祉の理念と意義を把握させながら知識の定着を図る授業展開
- 各種メディア教材や介護実習での事例などを活用した学習活動の工夫
- 社会人を講師として積極的に活用した教育活動の導入

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

主題設定 ▶ 追究探究 ▶ 発表論述

《主題を設定して行う学習の例》

【介護実習】介護計画の立案，実施，評価，修正など一連の介護過程を実践，考察

【事例研究】サービス利用者の心理や生活状態を分析し，求められる介護の内容と対応方法について考察

【報告書の作成・発表会の実施】介護実習などの成果や課題をまとめた報告書の作成や発表会の実施

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○社会福祉施設における長期間の介護実習を行う。

○福祉に関する各分野で活躍する職業人等による授業を行う。

コミュニケーション能力を育む教育

○介護実習などで学んだ成果を発表し双方向の議論を行う。

○介護実習の成果や課題をまとめた報告書を作成する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○自分たちが住んでいる地域が抱える課題を調査，分析する。

○学習の成果を生かしたボランティア活動を行う。

（19） 理　　数

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

課題研究 新設	（１～４）	■
理数数学Ⅰ	（４～６）	■
理数数学Ⅱ	（９～15）	■
理数数学特論 新設	（２～６）	
理数物理	（３～８）	□
理数化学	（３～８）	□
理数生物	（３～８）	□
理数地学	（３～８）	□

※必履修科目について

■ 「理数数学Ⅰ」「理数数学Ⅱ」「課題研究」
すべての生徒が履修

□ 「理数物理」「理数化学」「理数生物」「理数地学」
３科目以上をすべての生徒が履修

2 教科の目標

事象を探究する過程を通して，科学及び数学における基本的な概念，原理・法則などについての系統的な理解を深め，科学的，数学的に考察し表現する能力と態度を育て，創造的な能力を高める。

3 各科目の内容（主な変更点等）

※(　　)内は関連する科目の略号，数学Ⅰ→数Ⅰ等

理数数学Ⅰ
○「数と式」(数Ⅰ)，「図形と計量」(数ⅠA)，「二次関数」(数ⅠⅢ)，「指数関数・対数関数」(数Ⅱ)及び「データの分析」(数Ⅰ)

理数数学Ⅱ
○「いろいろな式」(数Ⅱ)，「数列」(数B)，「三角関数と複素数平面」(数ⅡⅢ)，「図形と方程式」(数ⅡⅢ)，「極限」(数Ⅲ)，「微分法」(数ⅡⅢ)及び「積分法」(数ⅡⅢ)

理数数学特論
○「整数の性質」(数A)，「ベクトル」(数B)，「行列とその応用」(従前の数C)，「離散グラフ」(教材は各校で準備)，「場合の数と確率」(数A)又は「確率分布と統計的な推測」(数B)

理数物理
理数化学
理数生物
理数地学

○基礎を付した科目及び物理，化学，生物，地学の内容等を参照し，必要に応じて，発展，充実させて取り扱うこと。
○基本的な概念の形成と科学の方法が無理なく行われること。

課題研究
○ 次の①～⑤の中から，個人又はグループで適切な課題を設定する。
①及び②については，理数科の各科目の内容と関連させて扱う。

①特定の自然の事物・現象に関する研究
②特定の社会現象に関する研究
③先端科学や学際的領域に関する研究
④自然環境の調査に基づく研究
⑤科学や数学を発展させた原理・法則に関する研究

4 各科目に共通の留意事項

（１）「理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数学特論」の指導は，数学的活動を一層重視すること。
（２）観察，実験などの結果を分析し，それらを表現するなどの学習活動を充実すること。
（３）生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。
（４）持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえ，科学的な見地から取り扱うこと。
（５）観察，実験では，事故防止，使用薬品などの管理及び廃棄について十分留意すること。
（６）コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用すること。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業（課題研究）実施に当たっての留意点

（１）**課題設定**…主体性や発想を尊重し，必要に応じて適切な指導助言を行う。
（２）**計画**…教師と生徒との話合いを十分に行い，具体的なものとなるようにする。
（３）**研究の実施**…個人又はグループで研究を行い，危険防止や安全対策に十分留意する。
（４）**研究の成果**…目的，方法，結果，考察，結論，参考文献等を含んだ研究報告書を作成する。
研究発表会を行い，論理的な表現力を高め，達成感をもたせる。
（５）**評価**…研究報告書，発表の内容，創造的な思考，研究態度等，多様な方法を用いる。

指導方法の工夫・改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得】

系統的な理解を深める授業展開

数学Ⅱと数学Ⅲの微分・積分をまとめて学習する，化学基礎と化学の物質の変化をまとめて学習するなど，系統的・一体的に扱う。

数学，理科（共通教科）の内容を発展，拡充して取り組む授業展開

簡単な微分方程式，岩石等の偏光顕微鏡観察など，内容を拡充して扱う。

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

《課題研究の充実》

【特定の自然の事物・現象に関する研究】
「生物の生理活性に関する研究」
身の回りの野菜や植物の成分の性質について考察

【先端科学や学際的領域に関する研究】
「ノイズの除去に関する研究」
音に混入したノイズを除去する三角関数などを使った処理について考察

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○　世の中の現象や出来事について，科学的・数学的に考察し，意見を発表し合う。
○　情報収集や処理能力等を高めるために，コンピュータ等を積極的に活用する。

コミュニケーション能力を育む教育

○　課題解決のための計画，実験や調査の方針などをグループで討論する。
○　研究成果発表会を行い，互いの研究について質疑応答を行う場面を設定する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○　大学や研究機関，博物館等と連携，協力を図り，専門的な意見を取り入れる。
○　地域にある文化財の構造や自然環境等の調査を行い，地域資源の保全を考える。

(20) 体　　育

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は現行の科目名）

① スポーツ概論（体育理論）
2 スポーツⅠ（スポーツⅠ）
3 スポーツⅡ（スポーツⅡ）
4 スポーツⅢ（スポーツⅢ）
5 スポーツⅣ（ダンス）
⑥ スポーツⅤ（野外活動）
⑦ スポーツⅥ（体つくり運動）
⑧ スポーツ総合演習

ここがポイント！

・「スポーツ総合演習」は新設科目
・体育科においては，「スポーツ概論」，「スポーツⅤ」，「スポーツⅥ」，「スポーツ総合演習」を各学年においてすべての生徒が履修。また，その他の４科目から１科目以上を選択履修

＊数字の○囲みは必履修科目

2 教科の目標

心と体を一体としてとらえ，スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的，合理的，計画的な実践を通して，健やかな心身の育成に資するとともに，生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

ここがポイント

（１）健やかな心身の育成を図る能力を向上
（２）特定のスポーツの選択や課題研究等によって，「する，みる，支える」などの多様なスポーツへのかかわりを経験させ，我が国におけるスポーツの振興発展の担い手を育成

3 各科目の内容（主な変更点等）

スポーツ概論

○各科目に共通する内容や，まとまりで学習することが効果的な内容に精選
○課題研究や実習などの知識を活用する学習活動を重視

スポーツⅥ

○内容は，「(1)体つくり運動の理解と実践，(2)目的に応じた心身の調整の仕方や交流を深めるための運動の仕方の理解と実践，(3)ライフステージに応じた運動の計画の立て方の理解と実践」で構成
○「内容の取扱い」で，(1)を入学年次，(2)又は(3)のいずれかをその次の年次以降で選択

ｽﾎﾟｰﾂ総合演習

○内容は，「(1)スポーツの知識や実践に関する課題研究，(2)スポーツの指導や運営及び管理に関する課題研究，(3)スポーツを通した社会参画に関する課題研究」で構成
○学外の認定資格等の取得と関連付けるなど，より専門的かつ実践的な知識及び技術を習得

4　各科目に共通の留意事項

（１）公正，協力，責任，参画に対する意欲及び思考力・判断力等の育成を重視する。
（２）危険を予見し回避活動をとるなど，健康・安全を確保し事故防止を図る能力を育成する。
（３）スポーツⅠ～Ⅳの指導に当たっては，「スポーツⅥ」の学習効果の活用を図る。
（４）学外の認定資格等の取得と関連付け，より専門的かつ実践的な知識・技能の習得を図る。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）主体的な学習のために，単元のはじめに課題解決の方法を確認する。
（２）仲間の課題を指摘したり，課題解決のアイディアを伝え合ったりする活動を重視する。

指導方法の工夫・改善

【専門的な知識・高度な技能の習得】

自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術，作戦の習得
高度な技能の習得

スポーツの指導法，審判法，大会運営，施設・用具の管理の知識習得
プログラム・マニュアルの作成

ライフステージに応じた運動の行い方，実生活への取入方等の理解
家族や高齢者を想定した計画

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

主題設定 ▶ 追究探究 ▶ ゲーム発表

《主題を設定して行う学習の例》

【作戦などの話合い】（スポーツⅡ）
相手や相手チームに応じた作戦の探求

【実習・発表】（スポーツ総合演習）
「スポーツを通した社会参画」
スポーツを支える視点から自らテーマを選び，文献研究，体験，実習などを通した課題研究の実施

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○スポーツイベントへのスタッフ参加体験を通して，住民の立場でイベントへの参画の在り方を発表する。
○協会の審判員資格，段級位資格，救命救急等の学外の認定資格等を取得する。

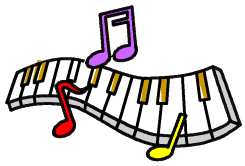
コミュニケーション

○ゲームに勝つための練習方法や作戦についてチームで協議し，発表し合う。
○高齢者や特別支援を要する人などのスポーツ推進のための実態調査をし，ボランティア実習を行う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○国体開催競技など各地域の「シンボルスポーツ」を体験したり，調べたりする。
○武道を通して，我が国固有の伝統的な考え方や行動の仕方を理解する。

（21）音　　楽



1　設置科目及び履修要件

改　訂　前		改　訂　後	
	科　　目		科　　目
第 1	音　楽　理　論	第 1	音　楽　理　論
第 2	音　　楽　　史	第 2	音　　楽　　史
第 3	演　　奏　　法	第 3	演　奏　研　究
第 4	ソルフェージュ	第 4	ソルフェージュ
第 5	声　　楽	第 5	声　　楽
第 6	器　　楽	第 6	器　　楽
第 7	作　　曲	第 7	作　　曲
		第 8	鑑　賞　研　究

名称変更

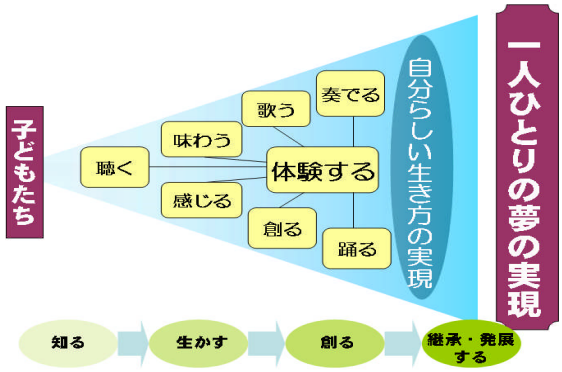
新　規

2　教科の目標

音楽に関する専門的な学習を通して，感性を磨き，創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに，音楽文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

■　音楽教育はキャリア教育につながっている。

様々な楽曲に出会い，曲の背景や創った人の思いを知ることで，自分自身を振り返ることにつながる。生の音楽や演奏者にふれ体験することは夢を描く瞬間である。音楽活動は自分らしい生き方，つまり一人ひとりの夢の実現につながる。



3　各科目の内容（主な変更点等）

音楽理論　○「楽典，楽式など」→「楽典，楽曲の形式など」に改訂
（やや狭い）　→　（多様な）

音楽史　**演奏研究**　○「３年間にわたって履修させること」という制限を外し，各学校がより柔軟な教育課程を編成できるよう変更

演奏研究　○従前の「演奏法」の趣旨をより明確化
○独善的な解釈に陥ることなく，生徒が個性を生かした演奏を追求できるようにすることが大切

ソルフェージュ　○配列を，(1)視唱　(2)視奏　(3)聴音　の順に変更。ソルフェージュの本来的な意味といえる視唱を(1)とした。

声　楽　**器　楽**　**作　曲**　○言語活動を充実する観点から，「～演奏（作品）を共有したり，評価し合ったりする活動～」を重視

作　曲　○「我が国の伝統的な音楽の特徴を生かした作曲についても扱うようにする」ことを規定

鑑賞研究　○１年間のみ取り組むことができる。「音楽批評」においては，優れた批評を読んで学習することが大切

4　「各科目に共通の留意事項

「声楽」の(2)，「器楽」の(6)の内容の「いろいろな形態のアンサンブル」については，他者と協調しながら活動することによって，より一層幅広い表現の諸能力を養うため，重視して扱うことを示している。(「演奏研究」を関連させることができる。)

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

音楽を専門的に学ぶ上での「基礎・基本」

楽典，楽曲の形式など
和声法
音楽史，演奏研究
ソルフェージュ
鍵盤楽器の独奏

↑

すべての生徒が履修

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

専攻　　専門的に履修する種目

＋

副専攻　「声楽」の独唱，「器楽」のいずれかの楽器を履修できる。

↑

音楽的視野の拡大

音楽表現をより豊かにする

○インターネットや効果的なコンピュータソフトの活用

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○著作権等を尊重する態度を養うとともに，多くの楽曲について，それらを創作した著作者や実演家等がいることや，その人たちの作品であることに対する生徒の意識を高め，日常生活の中にある音楽や将来かかわっていく音楽についても，同様に意識できるようにする。

コミュニケーション能力を育む教育

○アンサンブルの活動における楽曲の解釈，表現意図や表現方法などについて，他者と話し合ったり確認し合ったりする。

○音を媒体とするコミュニケーションである音楽について，解釈や価値などを言葉で表す活動である批評を行う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域や学校の実態に応じて，演奏発表や鑑賞を文化施設で実施する。

○自己の課題に沿った調査等を社会教育施設で実施する。

○郷土の伝統音楽などを教材として効果的に導入する。

○地域において様々な形で音楽に携わっている人の活動を調べたり，演奏を聴いたりする。

（22）美　　術

1　設置科目及び履修要件

美術史
素描
構成

すべての生徒が履修

美術概論　絵画　版画　彫刻
ビジュアルデザイン　クラフトデザイン
情報メディアデザイン　映像表現
環境造形　鑑賞研究

選択して履修

2　教科の目標

美術に関する専門的な学習を通して，美的体験を豊かにし，感性を磨き，創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに，美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

ここがポイント！

○ 見る，描く，つくるなどの具体的な目的をもって自然や芸術などの美しさに触れる体験的な学習を通して，感性を磨く。

○美的直感力や想像力を高め，一人ひとりの独自な持ち味を大切にして創造的な表現と鑑賞の能力を高める。

○社会全般にわたる美的環境の改善向上などに関心をもち，美術文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を育てる。

3　各科目の内容（主な変更点等）

美術史　○**「文化」との関連**を重視，新たに**「（４）現代の美術と文化」**を追加

素　描　○「（１）デッサン」「（２）スケッチ」「（３）表現材料」を，**相互に関連付けた**扱い（生活や文化との関連付け）

版　画　○「（２）エッチング」を**「（２）銅版画」**と改め，**「（４）シルクスクリーン」**を追加

ビジュアルデザイン　○「平面・立体デザイン」「空間デザイン」で，**様々な映像メディア機器を**活用（情報メディア表現，映像表現）

情報メディアデザイン　○情報メディアの活用による**伝達効果及び特質**を生かした表現方法や技能の体得

映像表現　○映像機器の特性を生かした**芸術的な自己表現**の充実

4　各科目に共通の留意事項

（１）情報通信ネットワーク，地域の施設，人材等を活用する。
（２）美術に関する知的財産権や肖像権に配慮する。
（３）刃物類，塗料，器具などの使い方の指導と安全な保管を徹底する。

5　新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

授業実施に当たっての留意点

（１）主題や構想を練り上げ，表現を追究することができるよう活動構成を工夫する。
（２）各科目の関連，他教科との関連付け等，相互に学習効果を高める工夫をする。
（３）作品構想や調査活動，鑑賞等での言語活動を充実させる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 素描を適切に位置付け，観察力，描写力を高める
  描いて考える活動の充実
- 形体，色彩，材質等を効果的に使い，構造や機能を工夫して表す
  小・中の共通事項との関連を保障
- 作品から感じ取ったよさを言葉で伝え合う
  多様なよさと出会う場の設定
- 美術館等との連携，美術家との交流等により，現場とかかわる活動を設定

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

《主な学習活動》

【主題設定・作品構想】
・何をどのように表すか
・制作手順の見通し

【制作・作品構想の再検討】
・制作と構想の再検討の繰り返し
・構想の変更を可能にする時間設定

【鑑賞・話し合い】
・表現のよさの共有
・新たな価値との出会い

・情報通信ネットワーク等の活用による情報収集
・科目間の関連付けによる学習効果の向上

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○社会の美的環境のよさや課題に気付き，改善向上のための調査活動を行う。
○美術文化の発展と創造に寄与した先人の生き方に学び，自分の考えをもつ。

コミュニケーション能力を育む教育

○作品制作の構想の段階で互いの思いを伝え合い，制作の方向性について議論する。
○住みよい町づくりのための環境デザイン等，グループで構想し，話し合う。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○地域の工芸工房等を訪ね，制作見学や職人へのインタビューを行う。
○美術館等で，県内ゆかりの作品について，学芸員とギャラリートークを行う。

(23) 英　　語

1 設置科目及び履修要件

（カッコ内は標準単位数）

総合英語	（３～８）
英語理解	（３～８）
英語表現	（３～８）
異文化理解	（２～６）
時事英語	（２～８）

ここがポイント！

○ 従前７科目→５科目へ変更
○ 「総合英語」「異文化理解」は必履修科目

2 教科の目標

英語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

3 各科目の内容（主な変更点等）

総合英語

○ 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の能力を一層伸ばし，社会生活において活用
○ **課題研究**を加え，成果について文章や口頭による発表の機会を設定

英語理解

○ 主に「聞くこと」「読むこと」を通して情報や考えを的確に理解し，自らの考えを深める能力を育成

英語表現

○ 事実や意見等を多様な観点から考察し，論理の展開や表現方法を工夫しながら，話したり書いたりして伝える能力を育成。**プレゼンテーション**，**小論文**を追加

異文化理解

○ 英語を通じて，外国の事情や異文化について理解を深める。内容において**伝統文化**を加え，異文化理解を通して自国の文化も理解

時事英語

○ 新聞，テレビ，情報通信ネットワーク等において用いられる英語を理解。単なる情報理解にとどまらないように，**時事的な内容に基づく発表や討論**を追加

4 各科目に共通の留意事項

（１）言語の使用場面や働きを適切に組み合わせた指導及び４技能を総合的に育成するための統合的な指導を行うこと。
（２）学習した言語材料（語句，文構造，文法事項等）を，知識・理解の域にとどめるのではなく，場面に応じて適切に活用することができるよう，多様な活動を設定すること。
（３）情報や考えを的確に理解するとともに，理解したことに対して，自分の感想や意見，考え等を適切に伝える活動を設定すること。
（４）高等学校の専門教科・科目として，適切な内容を扱うこと。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業

授業実施に当たっての留意点

（１）授業は英語で行うことを基本とする。（詳細は，「外国語」の項を参考。）
（２）生徒主体の，英語による**基礎的な～発展的な言語活動を授業の中心に据える。**
（３）生徒のexposure（**英語にふれる機会**）とexperience（**体験活動**）を充実させる。

指導方法の工夫・改善

【基礎的・基本的な知識・技能の習得】

- 語義や文構造等を理解した上で，繰り返し練習し，知識の定着を図る授業展開
  - *ドリル，音読等の反復練習*
- トピック，文化及び言語に関する背景知識の習得を促す授業展開
  - *多読，多聴等のインプット活動等*
- 言語の使用場面や働きを意識したり，論理の展開方法や効果的な表現方法等を学んだりする授業展開

年間指導計画にバランスよく配置

【知識・技能を活用する力の育成】

理解 ▶ **整理 探究** ▶ **発表 論述**

《主題を設定して行う学習の例》

【プレゼンテーション】
聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考え等をまとめ発表

【要約】
英文を読んで，トピックセンテンスを把握するとともに，要点を整理し，要約

３つの基軸に視点をおいた取組の例

キャリア教育

○国際社会で活躍する人物を扱った教材を通して，在り方生き方を学ぶ。
○将来の夢について，実現するための具体的な手立ても含めながら英語で書く。

コミュニケーション能力を育む教育

○読んで理解した内容について，ペアで意見を交換する。
○ある論題について，論点や根拠を明確にしながら，グループで討論する。

地域や伝統，文化を踏まえた教育

○外国の伝統や文化に関する教材を通して，自国との類似点・相違点を書く。
○地域の伝統行事について，グループでまとめ，ＡＬＴに紹介する。

Ⅳ　総合的な学習の時間

1　改訂の趣旨（改善の基本方針）

現状の課題

・学校間の取組の実態に差
・学校段階間で取組の重複
・特定教科の補充学習の実施

基本方針

○体験学習の重視，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習，探究的な活動の充実
○教育課程上の位置付けの明確化（新しく章立て）
○ねらい，育てたい力の明確化，学習活動の見直し

2　改訂の要点

（１）目標及び内容の改善

第１　目標　国が示す目標

①**横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して**，②自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，③学び方やものの考え方を身に付け，④問題の解決や探究活動に主体的，創造的，**協同的**に取り組む態度を育て，**⑤自己の在り方生き方を考える**ことができるようにする。

※①は学習の在り方，②～④は育てたい資質や能力及び態度，⑤はめざすこと。

各学校において定める目標

各学校においては，**第１の目標を踏まえ**，各学校の総合的な学習の時間の**目標を定める。**

※具体的な目標は各学校で定めること。
○第１の目標を構成する五つの要素はすべて含んでいること
○さらに，別の要素を付け加えることも可能

各学校において定める内容

各学校においては，**第１の目標を踏まえ**，各学校の総合的な学習の時間の**内容を定める。**

※具体的な内容は各学校で定めること。
○横断的・総合的な学習としての性格をもつ内容
○探究的に学習することがふさわしい内容
○学習や気付きが自己の在り方生き方を考えることに結び付く内容
○日常生活や社会とのかかわりがある内容

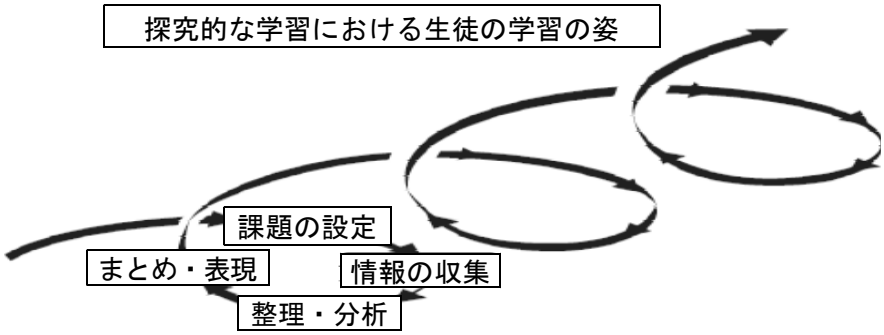
（２）内容の取扱いの改善

ア　**探究的な学習を重視**

教科		総合的な学習の時間
○基礎的･基本的な知識･技能の定着 ○知識･技能を活用する学習活動	役割分担	○教科を超えた横断的･総合的な学習 ○探究的な学習

■ 探究的な学習とは，問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく下図のような一連の学習活動のことである。

探究的な学習における生徒の学習の姿



■日常生活や社会に目を向け，生徒が自ら課題を設定

■探究の過程を経由
①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現

■自らの考えや課題が新たに更新され，探究の過程の繰り返し

イ　**学校間の取組状況の違い及び学校段階間の取組の重複を改善**

課題	対応：育てようとする資質や能力及び態度の視点を例示
学校間の取組状況の違い	①学習方法に関すること ②自分自身に関すること ③他者や社会とのかかわりに関すること
課題	対応：高等学校で行う学習活動を例示
学校段階間の取組の重複	①国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動 ②生徒が興味・関心，進路等に応じて設定した課題についての知識や技能の深化，総合化を図る学習活動 ③自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

ウ　**体験活動と言語活動の充実**

○体験活動を行うことを重視し，積極的に学習活動に取り入れること
○他者と協同して問題を解決しようとする学習活動の充実
○言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの学習活動の充実

３ 指導計画の作成

（１）指導計画の要素

【全体計画及び年間指導計画に記されるべきもの】
①各学校において定める目標
②育てようとする資質や能力及び態度
③各学校において定める内容
④学習活動
⑤指導方法
⑥指導体制
⑦学習の評価　等

※①～③は全体計画に必ず記載
①，②は学校単位で設定
③～⑦は学科ごとの設定も可

《全体計画の要素の例示》

※①～⑦以外は，各学校が全体計画を示す上で，必要と考えるものの例示

各学校において定める目標

【各学校で再確認】
○第１の目標の五つの要素を含んでいるか。

【各学校の実態に応じて工夫】
○より具体的な表現の盛り込み
○いずれかを重点化
○別の要素を追加

育てようとする資質や能力及び態度

【次の三つの視点を参考に具現化】
○学習方法に関すること　例 相手や目的，意図に応じて，手際よく論理的に表現する。
○自分自身に関すること　例 自己の将来について具体的に考え，夢や希望をもつ。
○他者や社会とのかかわりに関すること　例 互いを認め合い，協同的に行動する。

【次の視点を参考に不断の見直しが必要】
○各教科・科目等に示された目標及び内容
○生徒のそれまでの経験
○生徒の興味・関心
○生徒の活動や思考の及ぶ範囲や参画意識の度合い
○生徒の思考や認識の深化の度合い

各学校において定める内容

【内容として示すもの】

ア　**学習課題**…国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題
　　生徒が興味・関心等に応じて設定した課題
　　自己の在り方生き方や進路にかかわる課題　など

イ　**学習対象**…生徒が探究的にかかわりを深めるひと・もの・こと

ウ　**学習事項**…どんなことを学んでほしいかについて示したもの

例

学習課題	学習対象	学習事項
横断的・総合的な課題	自然環境と環境問題	・自然環境のかけがえのなさとその人的価値 ・環境問題と社会経済システム，開発とのかかわり ・環境保全と社会経済発展との構造問題

（２）年間指導計画の作成に当たっての七つの留意点

○生徒の実態や特性を踏まえること　○十分な見通しをもった周到な計画にすること
○実社会との接点を生み出すこと　○各教科・科目，特別活動との関連を図ること
○学年間の関連を見通すこと　○弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと
○外部の教育資源の活用及び社会参画を意識すること

４　学習指導のポイント

学習指導の基本的な考え方…主体性の重視，発展的な教材の用意，教師の適切な指導

学習指導のポイント…学習過程を**探究的**にすること。
　　他者と**協同**して取り組む学習活動にすること。

→ **学び方を学ぶ**，**知の総合化**

５　評価

評価の実施（どのような力がどの程度身に付いたかを把握）

○**信頼される評価**→評価規準の設定

○**多様な評価**→討論などの言語活動を評価，観察記録による評価，製作物による評価，ポートフォリオによる評価，自己評価や相互評価　など

○**学習状況の過程を評価**→はぐくまれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価

具体的な改善（よりよい学びを連続）

○評価結果の検討→原因と結果の明確化→改善案の作成・実施→適切な指導

総合的な学習の時間の目標の実現

Ⅴ　特別活動

1　改訂の趣旨（改善の基本方針）

現状の課題

・好ましい人間関係を築けない
・望ましい集団活動を通した社会性の育成が不十分
・活動の目的が不明確
・総合的な学習の時間等との活動の重なり
・内容が網羅的→重点化が困難

基本方針

○道徳，総合的な学習の時間との役割の明確化
○よりよい人間関係を築く力，社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視
○各内容の目標を明確化
○自主的・自発的な活動を重視するとともに，重点的な指導ができるように改善
○体験活動，話合い活動，異年齢集団の活動を重視

2　改訂の要点

（１）目標の改善

○　特別活動が，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため，目標に「人間関係」を追加
○　全体の目標を受けて各内容の目標を新たに明示　→　ここがポイント！

特別活動の目標と各活動・学校行事の目標

特別活動	望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。
ホームルーム活動	ホームルーム活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
生徒会活動	生徒会活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度を育てる。
学校行事	学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。

※　特別活動の目標との関連を明確にする観点から，特別活動の中心的な目標として示している「自主的，実践的な態度の育成」については，各内容のすべてに明示

（２）各活動・学校行事の内容の改善

ホームルーム活動

活動内容

①ホームルームや学校の生活づくり　②適応と成長及び健康安全　③学業と進路

重視する内容

○よりよい人間関係を築く力　○協力してホームルームや学校の生活の充実・向上を図る態度
○生徒が当面する課題に主体的にかかわる態度

生徒会活動

活動内容

①生徒会の計画や運営　②異年齢集団による交流　③生徒の諸活動についての連絡調整
④学校行事への協力　⑤ボランティア活動などの社会参画

重視する内容

○よりよい人間関係を築く力　○社会に参画する態度　○自治的能力

学校行事

活動内容

①儀式的行事　②文化的行事　③健康安全・体育的行事　④旅行・集団宿泊的行事
⑤勤労生産・奉仕的行事

重視する内容

○よりよい人間関係を築く力　○公共の精神を養うこと　○社会性

◇勤労生産・奉仕的行事

・社会的自立を一層すすめる観点から，奉仕体験の意義を明確化し，就業体験を重視

３　指導計画の作成と内容の取扱いの改善

指導計画の作成

全体計画及び年間指導計画の作成

○　全体計画及び年間指導計画の作成を明示
○　計画の作成に当たっては，各教科・科目や総合的な学習の時間との関連を図る

高等学校生活への適応と充実

○　ガイダンス機能の充実
→　特に高等学校入学当初において，個々の生徒が学校生活に適応するとともに，希望と目標をもって生活できるよう工夫する

人間としての在り方生き方の指導の充実

○　特に社会において自立的に生きることができるようにするため，社会の一員としての自己の生き方を探求

○　「総合的な学習の時間」との関連を特に図る

指導計画の作成に当たっての留意点

○　「ホームルーム活動」「生徒会活動」「学校行事」の各内容項目を，「入学から卒業までを見通して」すべて実施する

【総合的な学習の時間の実施による特別活動の代替】

総合的な学習の時間における学習活動により，特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては，総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

（総則第４款の８）

○　定時制の課程において，特別の事情がある場合には，ホームルーム活動の授業時数の一部を減じ，又はホームルーム活動及び生徒会活動の内容の一部を行わないものとすることができる

○　通信制の課程においては，特別の事情がある場合には，ホームルーム活動及び生徒会活動の内容の一部を行わないものとすることができる

内容の取扱い

よりよい生活を築くための諸活動の充実

〔ホームルーム活動及び生徒会活動〕

○　内容相互の関連を図るよう工夫

○　集団としての意見をまとめるなどの話合い活動の充実

○　自分たちできまりをつくって守る活動の充実

○　人間関係を形成する力を養う活動の充実

ホームルーム活動及び生徒会活動の内容の重点化と内容間の関連や統合の工夫

〔ホームルーム活動及び生徒会活動〕

○　入学から卒業までを見通して，必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり，他の内容を加えたりすることが可能

体験活動や言語活動の充実

〔学校行事〕

○　体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりするなどの活動を充実